

令和元年10月

令和元年	7月 ~	9月期	実績
令和元年	10月 ~	12月期	見通し

# 中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

## D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

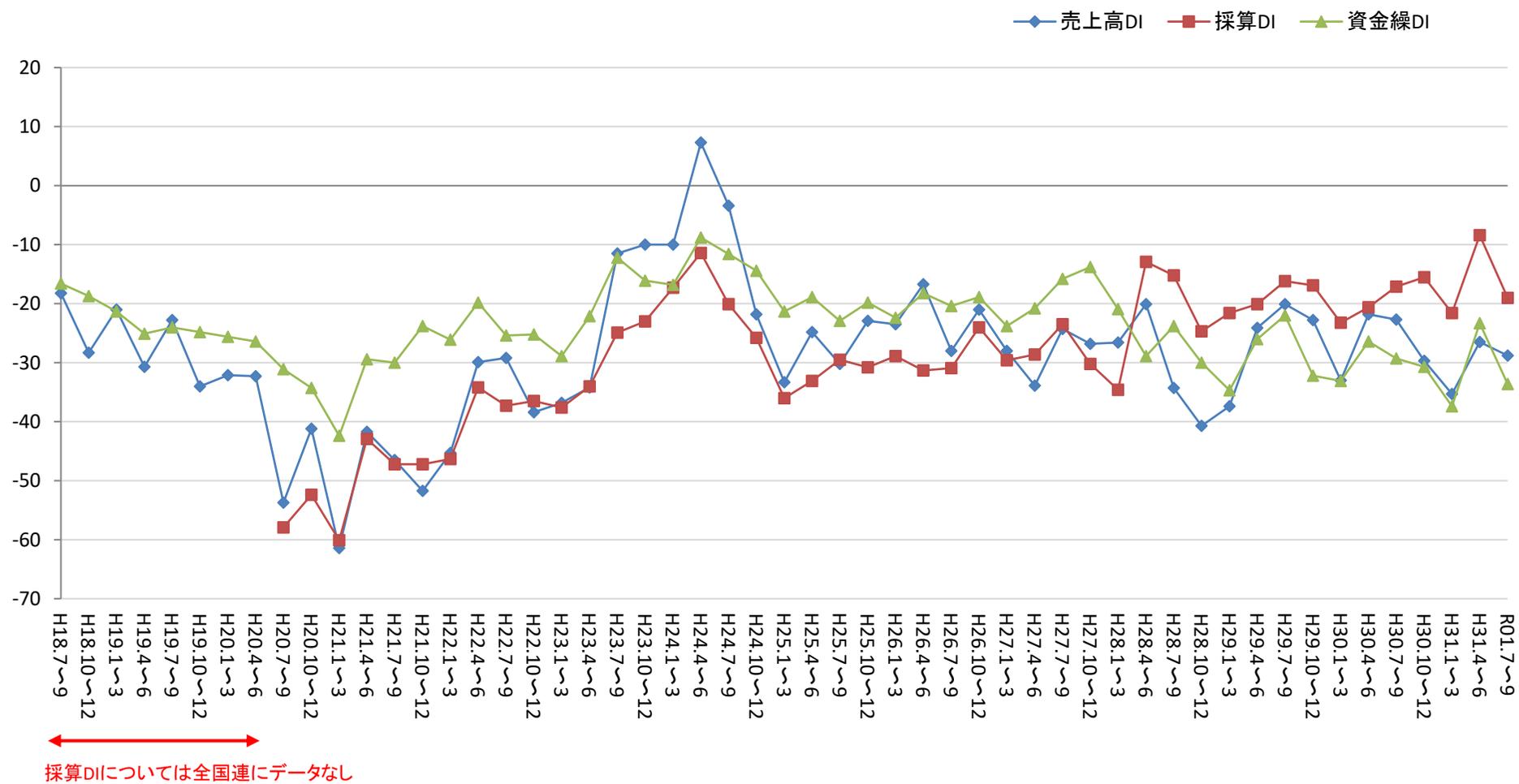
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[ 岩手県 産業全体 ]

### 主要景況項目の動き ー前年同期比ー



# 業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	平成29年	平成30年				平成31年		令和元年	(見通し)
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
製 造 業	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇
建 設 業	 曇	 雨	 雨	 曇	 雨	 曇	 薄 曇	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 曇	 雨	 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 曇

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△10.0	△10.1 ~△30.0	△30.1 ~△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

# 全産業の推移

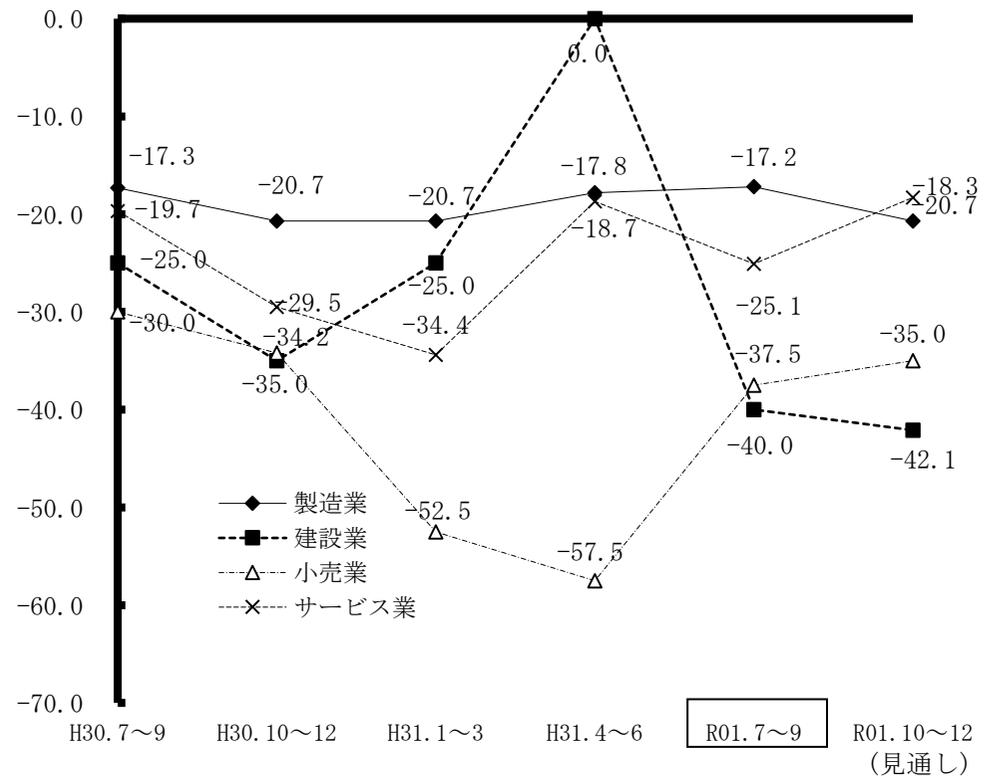
## 売上高

**建設業が大幅に低下**  
**小売業が大幅に上昇**

今期は、前期大幅に上昇した建設業が40.0ポイントの大幅な低下となり△40.0まで悪化しました。3期連続して低下していた小売業が上昇に転じ、△37.5まで改善しています。

また、製造業も小幅ながら上昇して△17.2となり、マイナス幅を縮小しています。前期上昇していたサービス業は、低下に転じ6.4ポイント低下して△20.7まで悪化しました。

来期は、サービス業、小売業が上昇し、製造業、建設業が低下すると見込まれています。



※建設業の売上高は完成工事高

# 全産業の推移

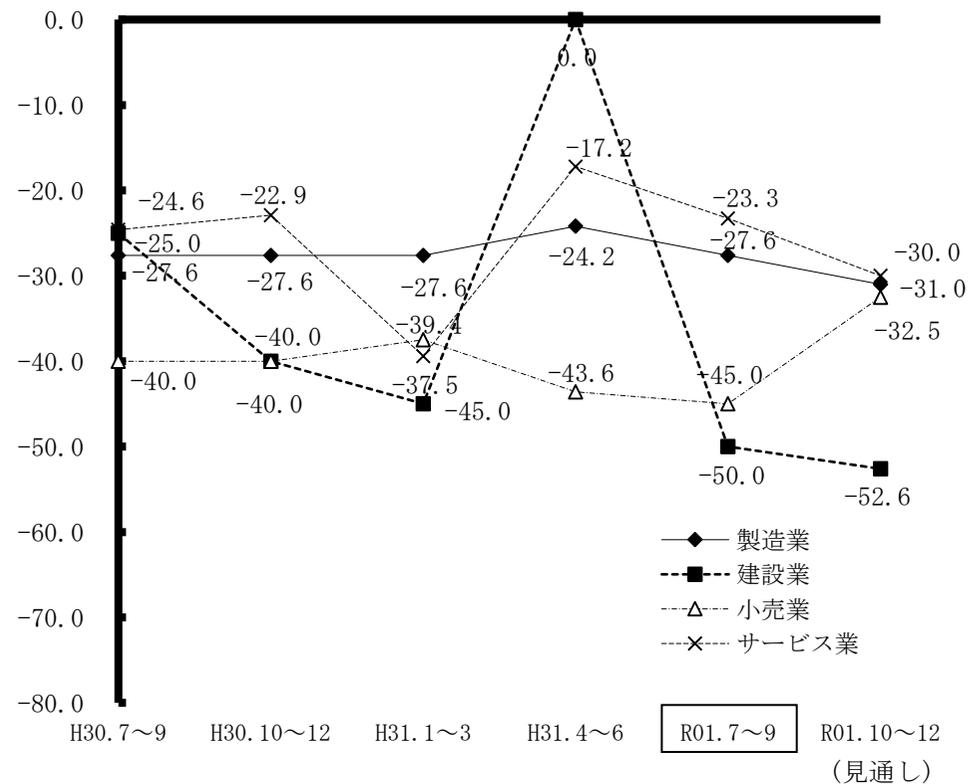
## 採算

全業種において採算D・Iが低下  
特に建設業が大幅に低下

今期は、建設業が50.0ポイントの大幅な低下となり△50.0まで悪化しました。サービス業が6.1ポイント低下して△23.3、製造業が3.4ポイント低下して△27.6、小売業も1.4ポイントと小幅ながら低下して△45.0となり、今期の採算D・Iは全業種において悪化しました。

来期は、小売業において改善が見込まれるものの、製造業、建設業、サービス業においては引き続き悪化するものと予想されています。

※採算は各業種とも経常利益



# 全産業の推移

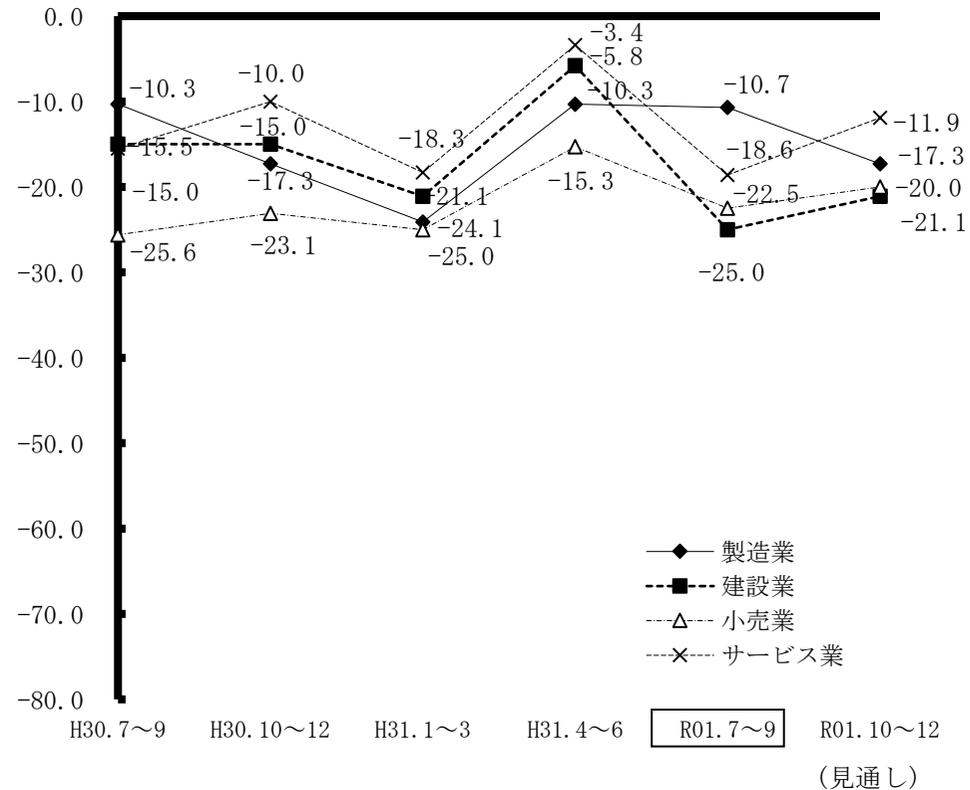
## 資金繰り

### 全業種で資金繰りD・Iが悪化

今期は、建設業が19.2ポイント低下して△25.0、サービス業が15.2ポイント低下して△18.6、小売業が7.2ポイント低下して△22.5、製造業も小幅ながら0.4ポイント低下して△10.7となりました。

資金繰りD・Iは全業種において悪化しています。

来期は、製造業は今期に引き続き低下が見込まれますが、建設業、サービス業、小売業においては改善することが予想されています。



## 売上高

<今 期>

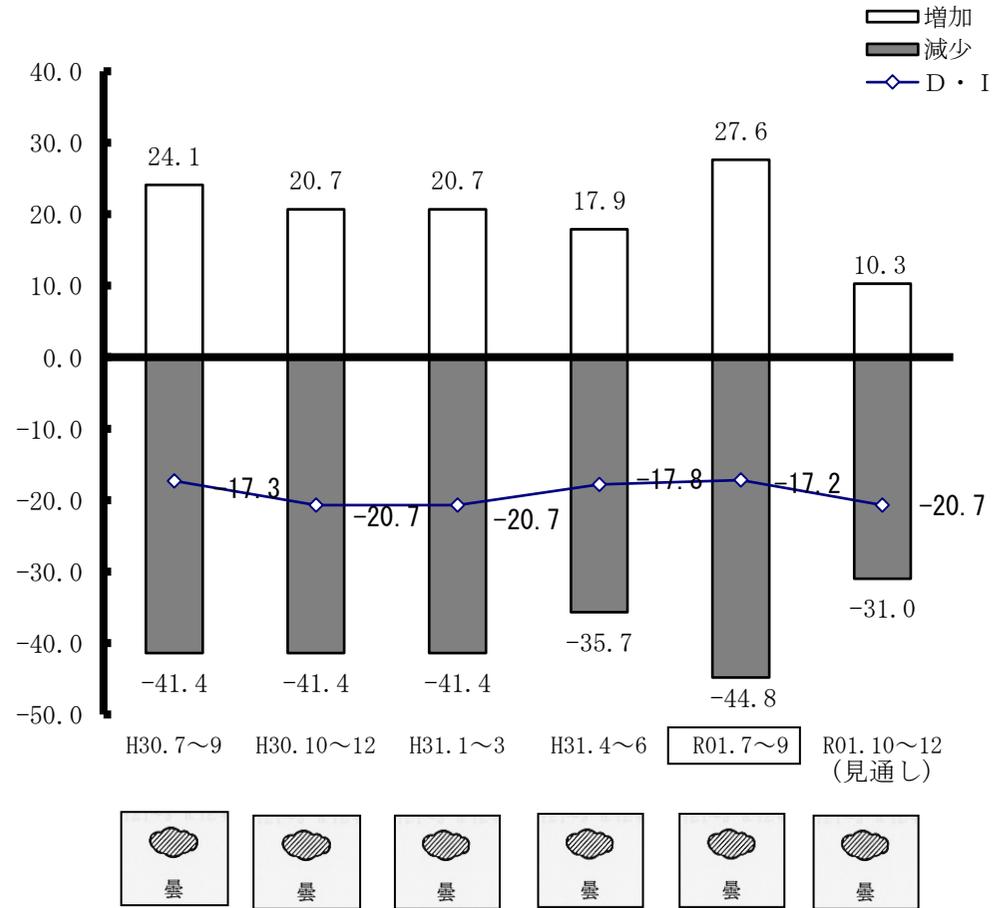


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業、売上高減少企業の割合はともに増加し、売上高D・Iは0.6ポイントの小幅な増加となり△17.2まで上昇しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が大幅に減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合も減少が見込まれることから、売上高D・Iは小幅な減少にとどまることが予想されています。



# 製造業の推移

## 採算

<今 期>

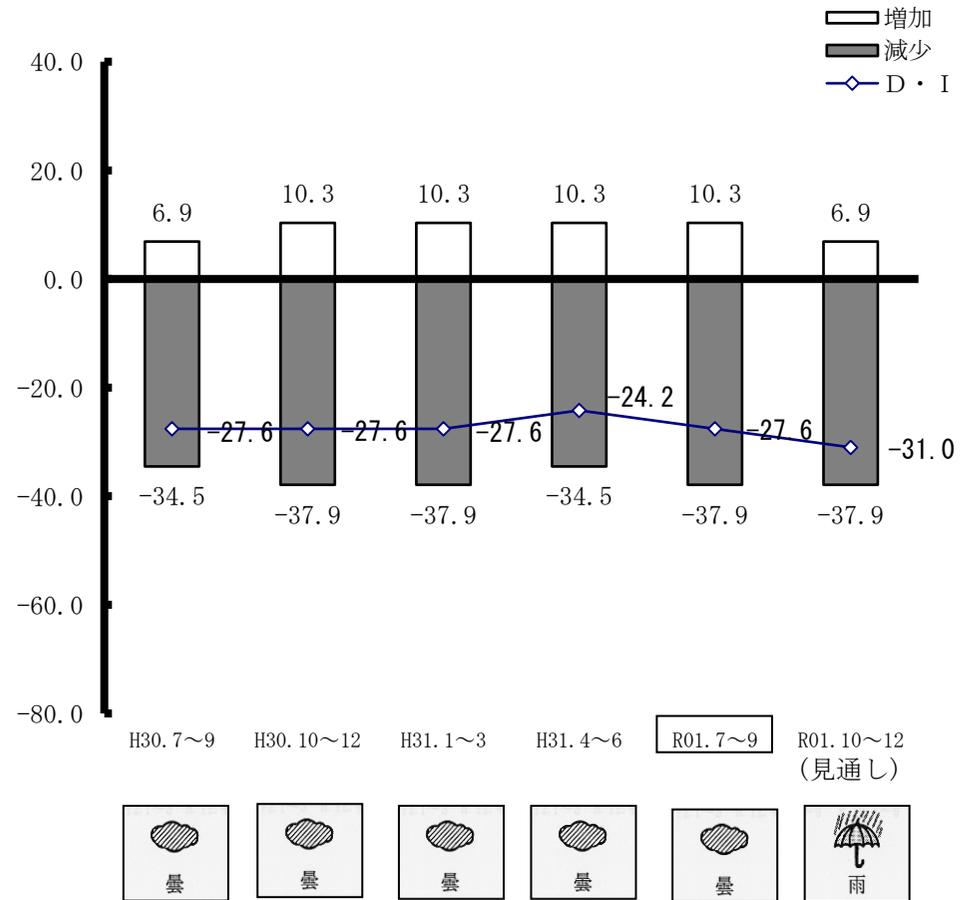


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が横ばいとどまったものの、採算が悪化した企業の割合が増加したため、採算D・Iは3.4ポイント減少し、△27.6まで悪化しました。

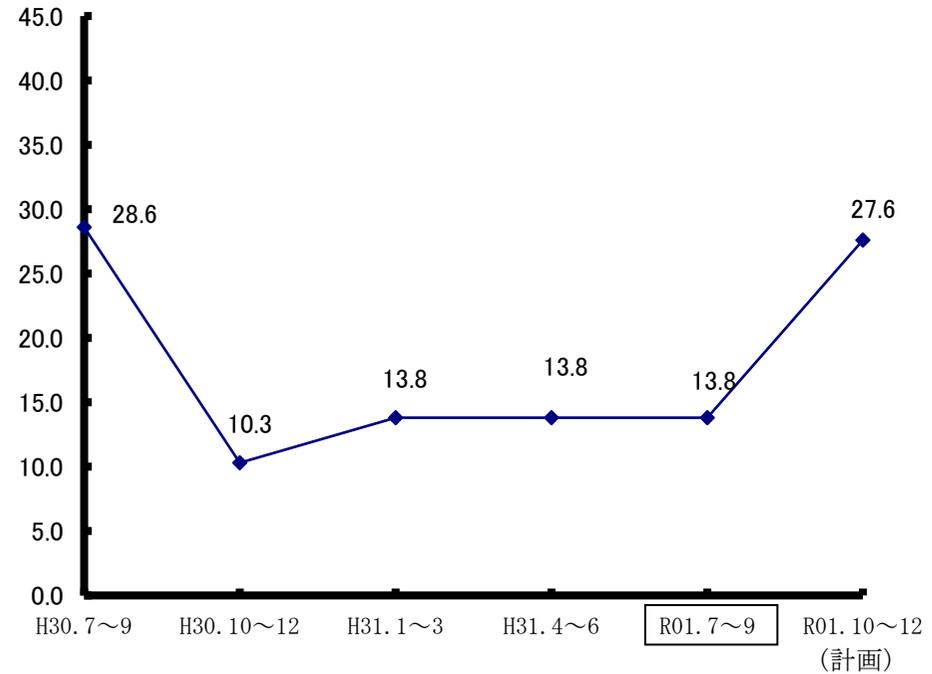
来期は、採算の改善を予想する企業が減少し、採算の悪化を予想する企業割合が横ばいに推移すると見込まれることから、採算D・Iは引き続き悪化する見通しです。



## 設備投資

今期は、設備投資を実施した企業数の割合は前期と同じ、13.8となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に増加し、27.6まで上昇する見通しです。

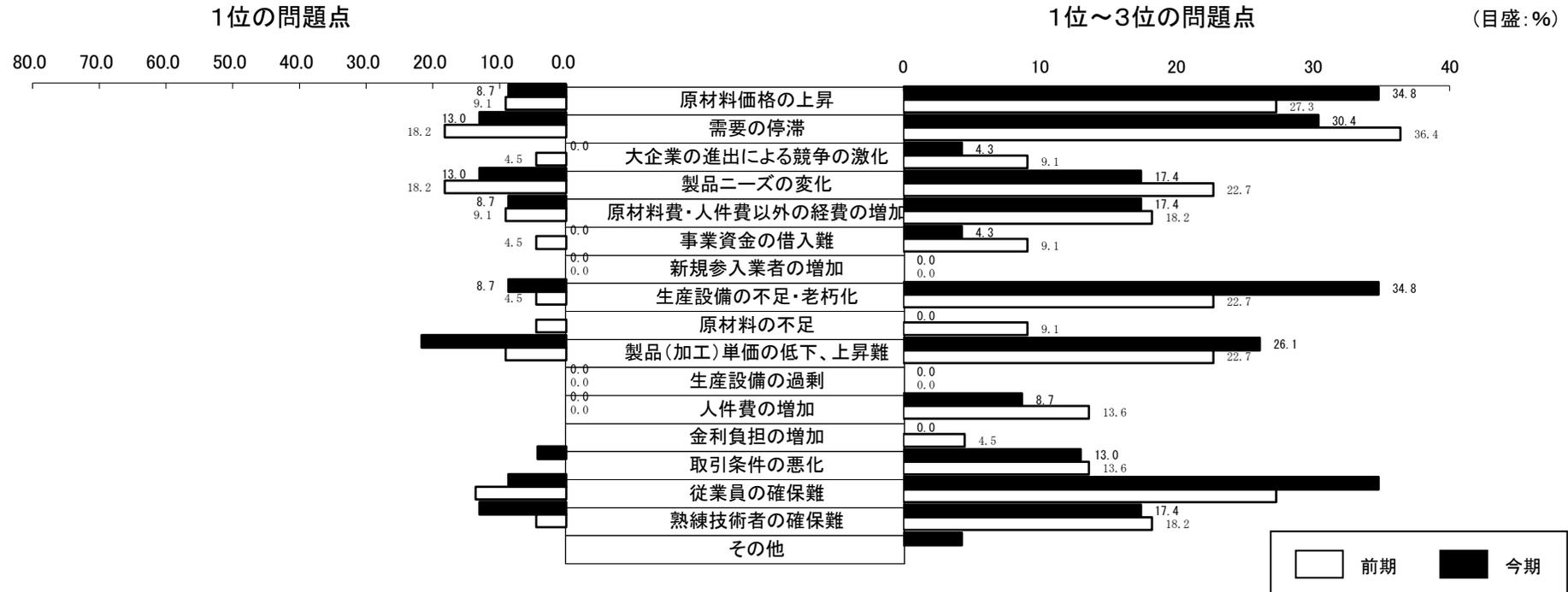


(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

## 経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



# 建設業の推移

## 売上高

<今 期>

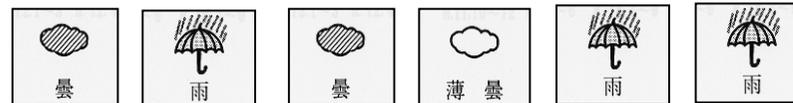
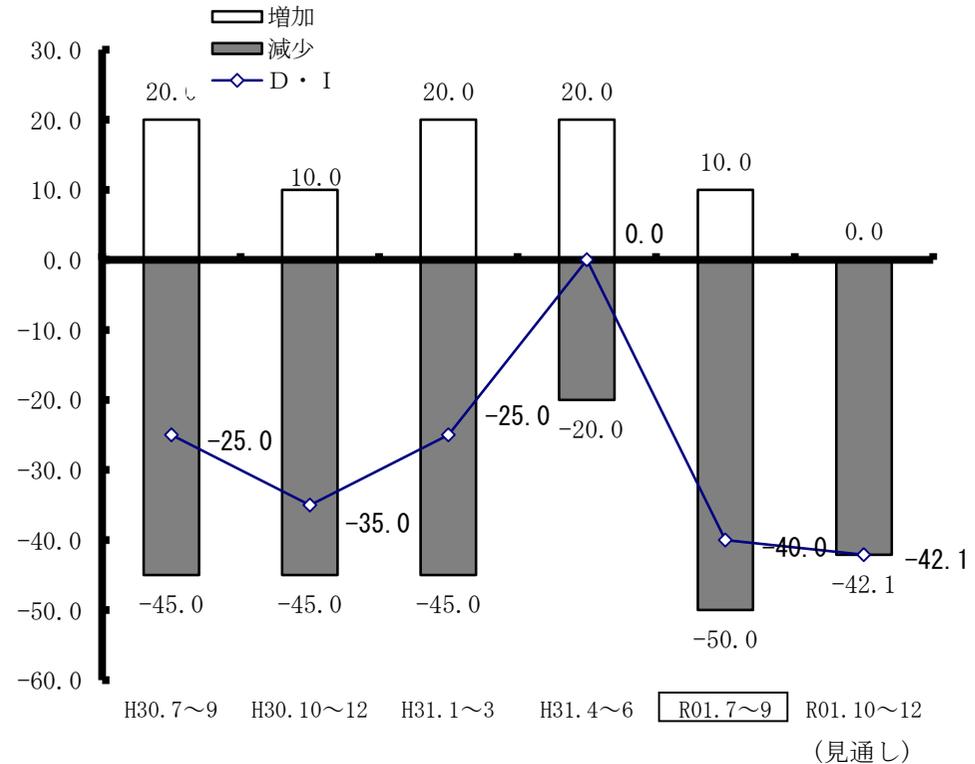


<来期見通し>



今期は、売上高が増加した企業割合が減少し、売上高が減少した企業割合が大幅に増加したことにより、売上高 D・I は大幅に低下してマイナス幅を大きく拡大し、△40.0まで低下しました。景況天気図も曇から雨へと変化しています。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合が減少するものの、売上高の増加を予想する企業の割合がゼロとなっており、売上高D・Iは今期に引き続き低下することが予想されています。



※建設業の売上高は完成工事高

# 建設業の推移

## 採算

<今 期>

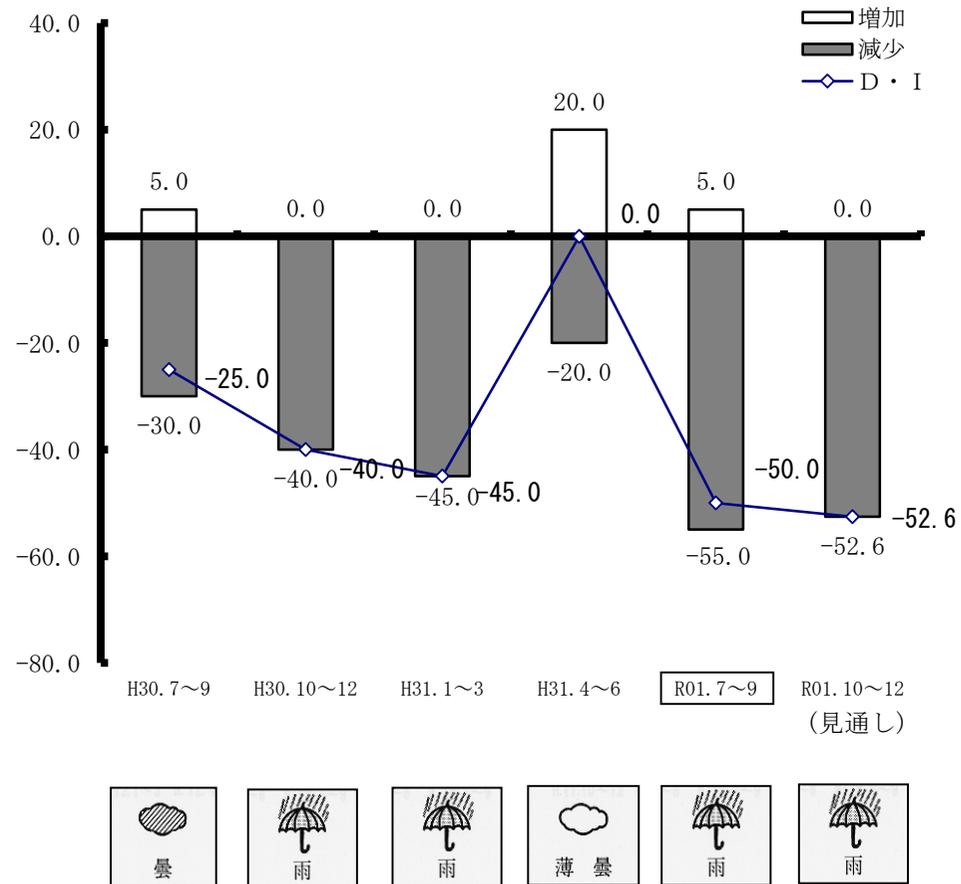


<来期見通し>



今期は、採算好転を挙げた企業の割合が15.0ポイント減少し、採算が悪化した企業の割合が35.0ポイント増加したため、採算D・Iは50.0ポイントの大幅な減少となり、50.0まで悪化しました。景況天気図も薄曇りから雨へと変化しています。

来期は、採算の悪化を予想する企業が減少するものの、採算の好転を予想する企業割合がゼロとなることから、採算D・Iは引き続き悪化する見通しです。



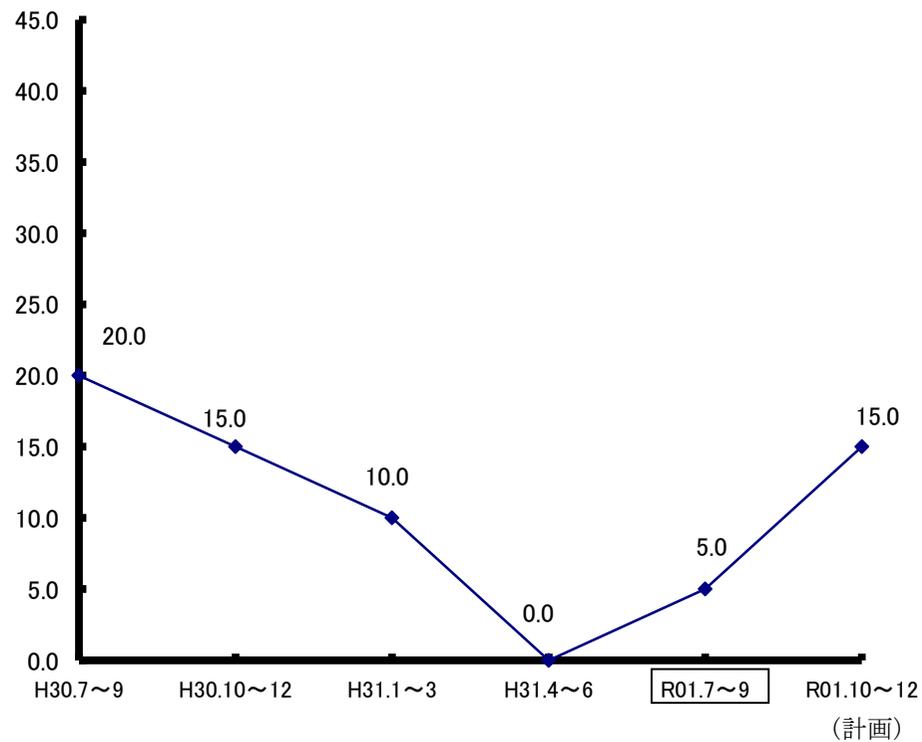
# 建設業の推移

## 設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、3期連続して減少しておりましたが、今期は増加に転じ、5.0となりました。

来期も設備投資を予定する企業数の割合は増加が見込まれ、15.0まで上昇する見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

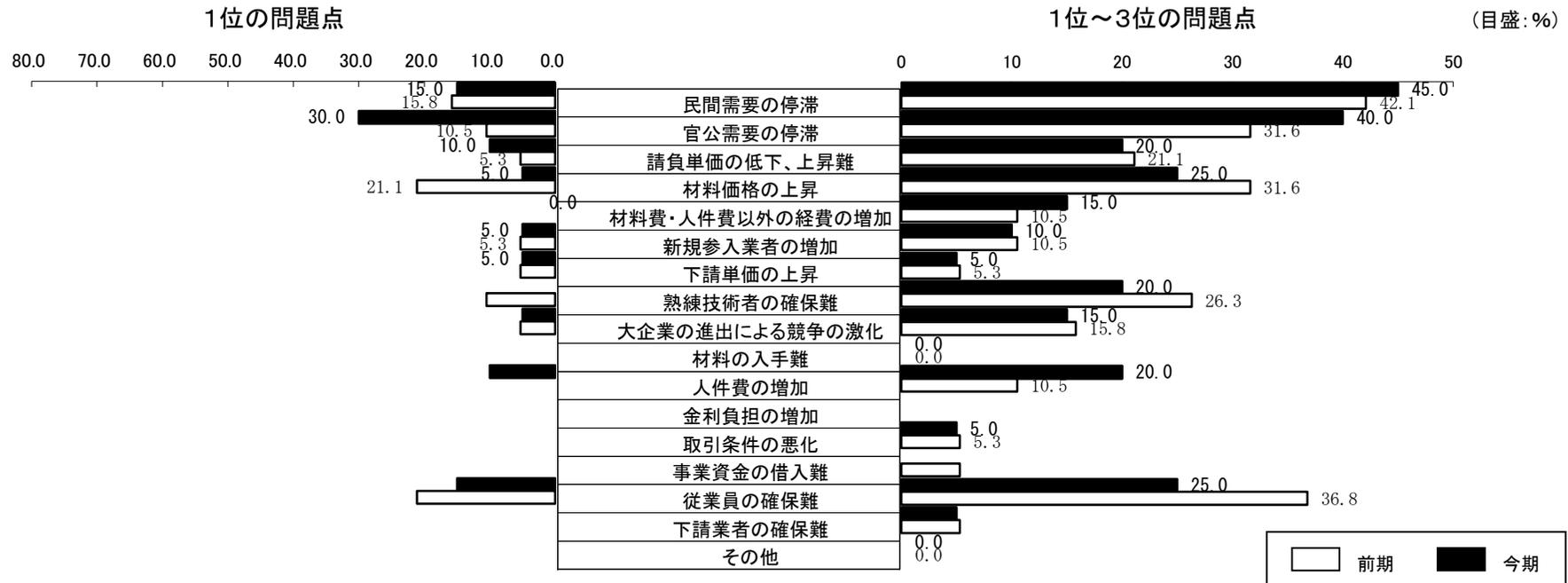


# 建設業の推移

## 経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



# 小売業の推移

## 売上高

<今 期>

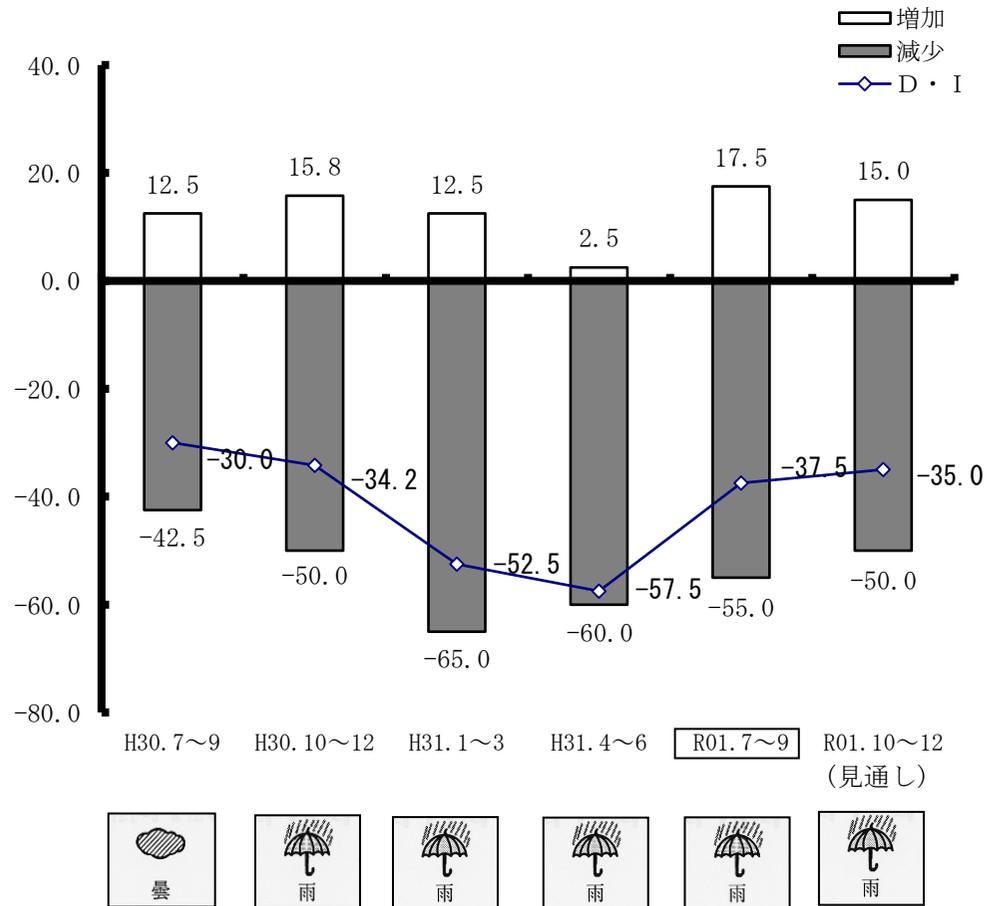


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が増加し、売上高減少企業の割合が小幅な減少となったことから、3期連続して低下していた売上高D・Iは上昇に転じ、20.0ポイントの増加して、△37.5まで上昇しています。

来期は、売上高増加を予想する企業割合は減少するものの、売上高減少を予想する企業割合も減少するため、売上高D・Iは引き続き上昇の見通しです。



# 小 売 業 の 推 移

## 採 算

<今 期>

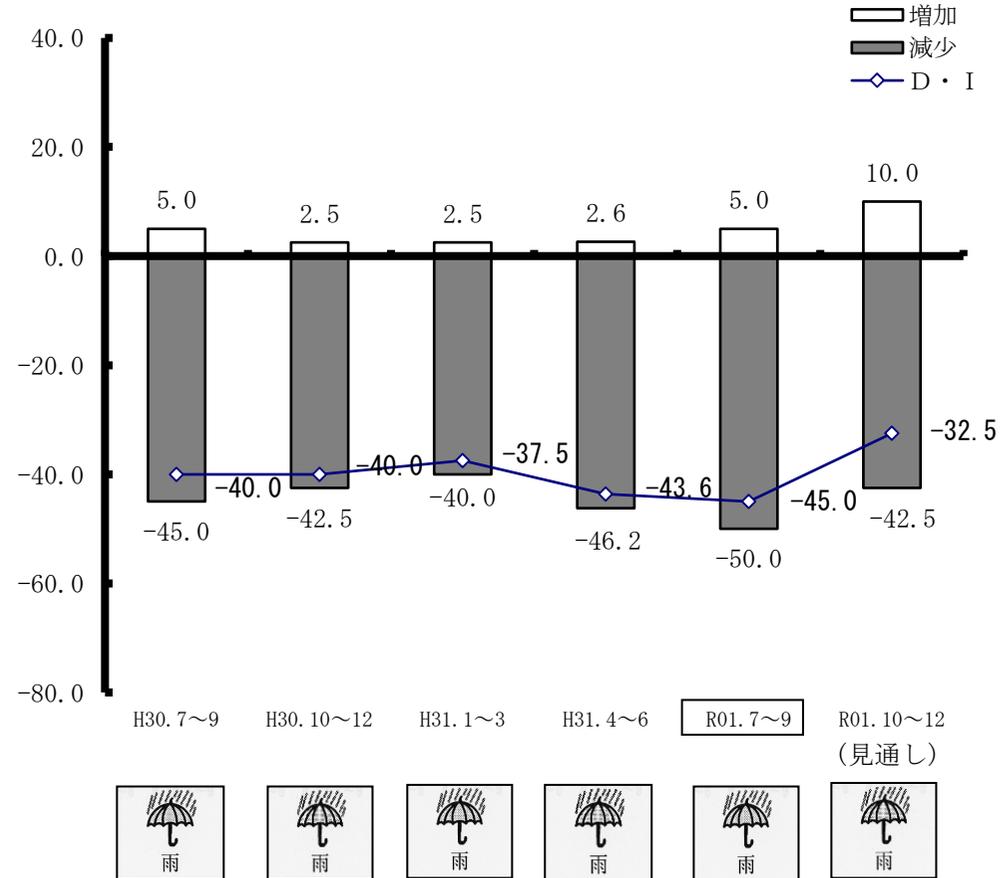


<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業割合は、2.4ポイント増加したものの、採算が悪化した企業の割合が3.8ポイント増加したため、採算D・Iは低下し△45.0まで悪化しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が増加し、採算の悪化を予想する企業割合が減少するため、マイナス幅が縮小し、採算D・Iは△32.5まで改善する見通しです。

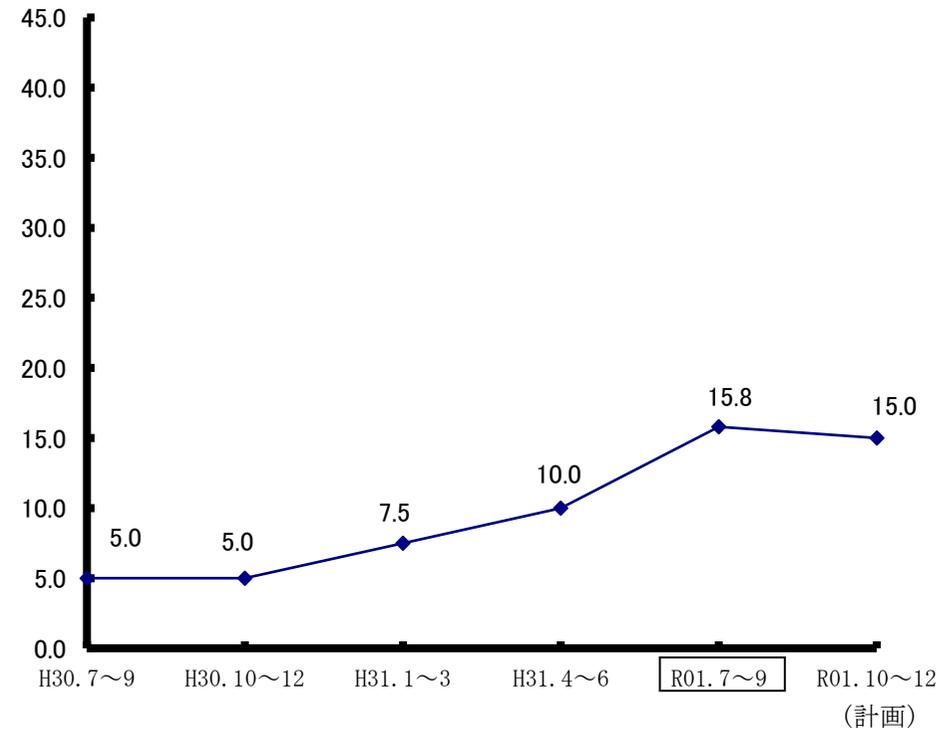


## 設 備 投 資

今期、設備投資を実施した企業数の割合は、15.8となり、3期連続しての増加となりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合が減少に転じ、15.0となる見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



# 小売業の推移

## 経営上の問題点

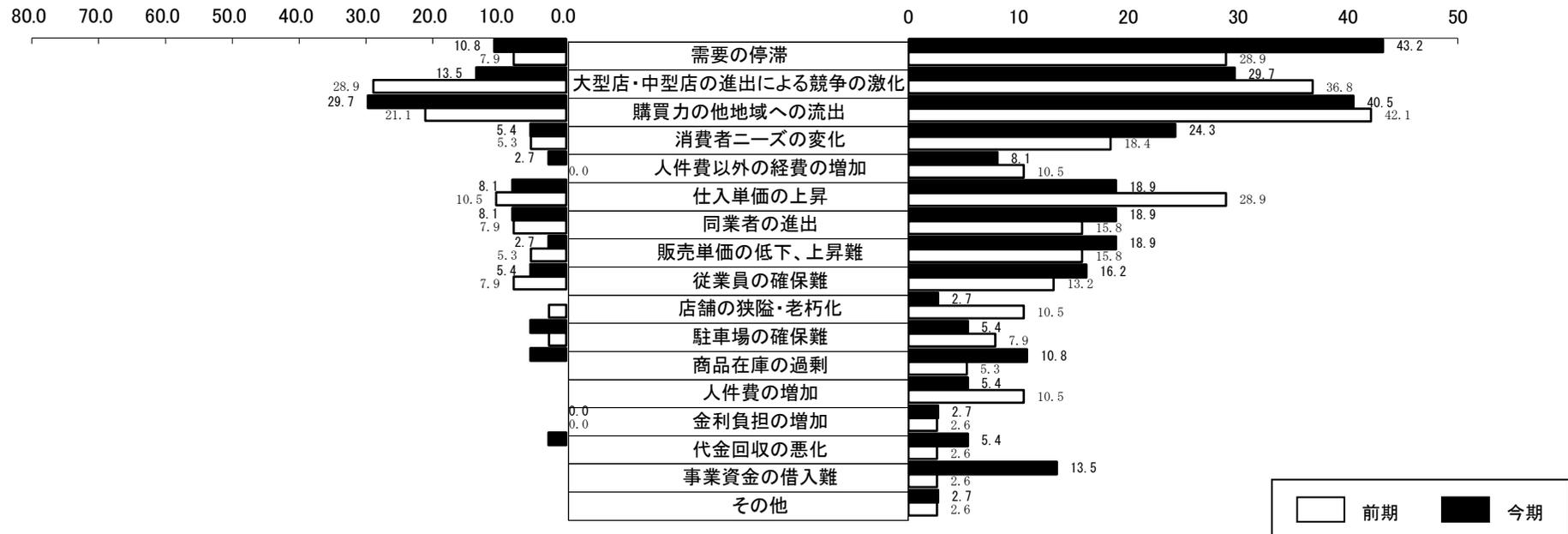
岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛: %)



# サービス業の推移

## 売上高

<今 期>

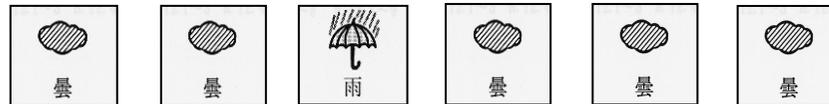
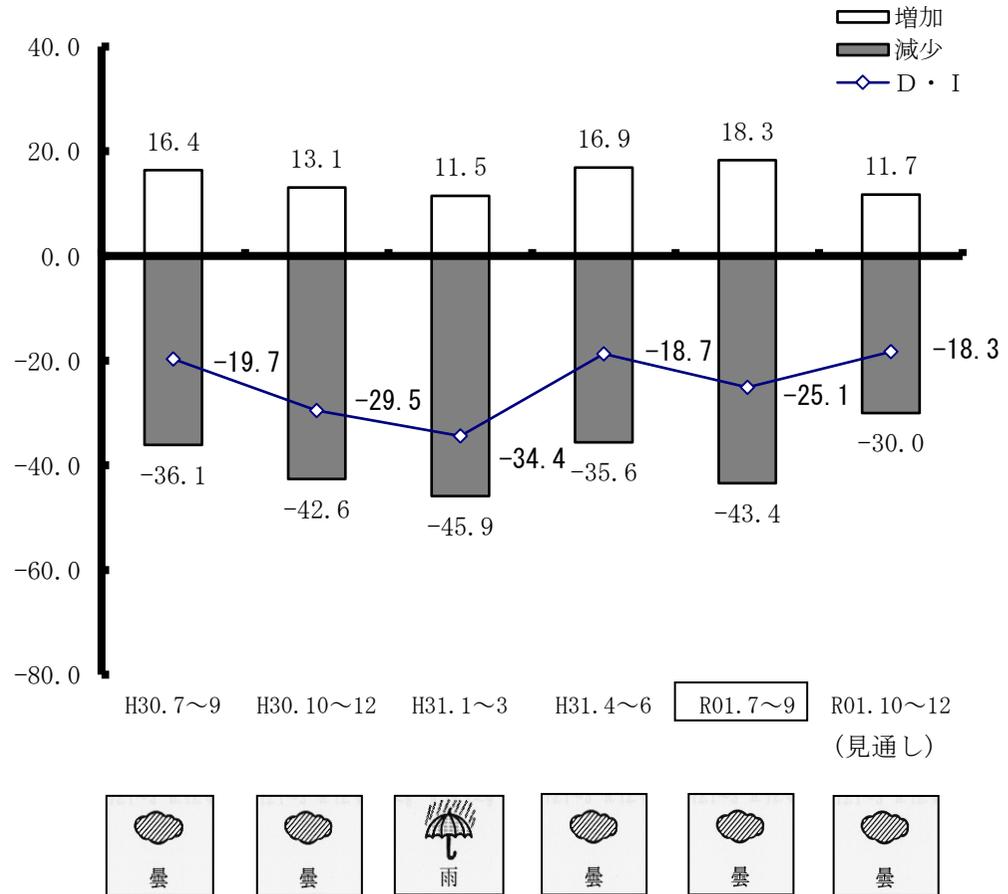


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が小幅に増加したものの、売上高減少企業の割合が7.8ポイント増加したため、売上高D・Iは6.4ポイント減少してマイナス幅を拡大し、△25.1まで低下しました。

来期は、売上高増加を予想する企業割合は減少するものの、売上高減少を予想する企業の割合も減少することから、売上高D・Iは引き続き増加し、△18.3まで上昇する見通しです。



# サービス業の推移

## 採算

<今 期>

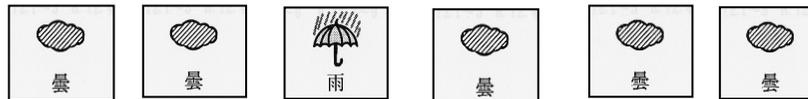
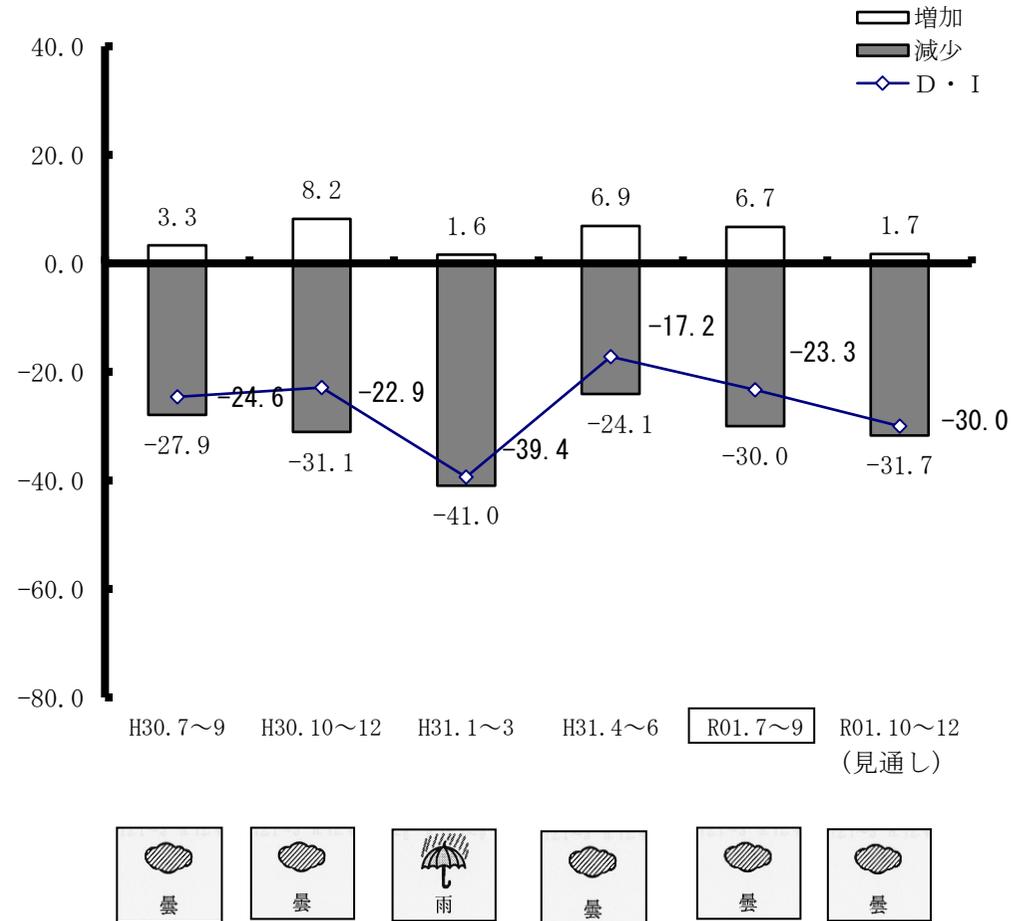


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合がほぼ横ばいだったものの、採算が悪化した企業割合が5.9ポイント増加したことから、採算D・Iは6.1ポイントの減少となり、△23.3まで悪化しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が引き続き減少し、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iはマイナス幅を広げ、△30.0まで悪化する見通しです。

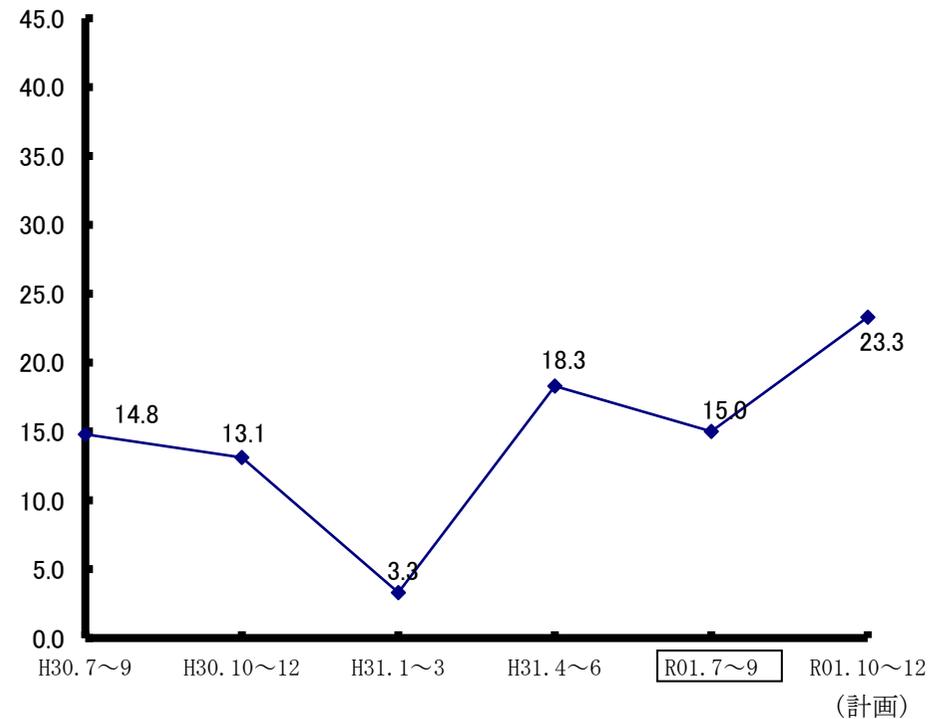


## 設備投資

前期大幅に増加した設備投資を実施した企業数の割合は、今期は減少となり、15.0となりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合が再び増加に転じることが予想され、23.3まで上昇する見通しです。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



# サービス業の推移

## 経営上の問題点

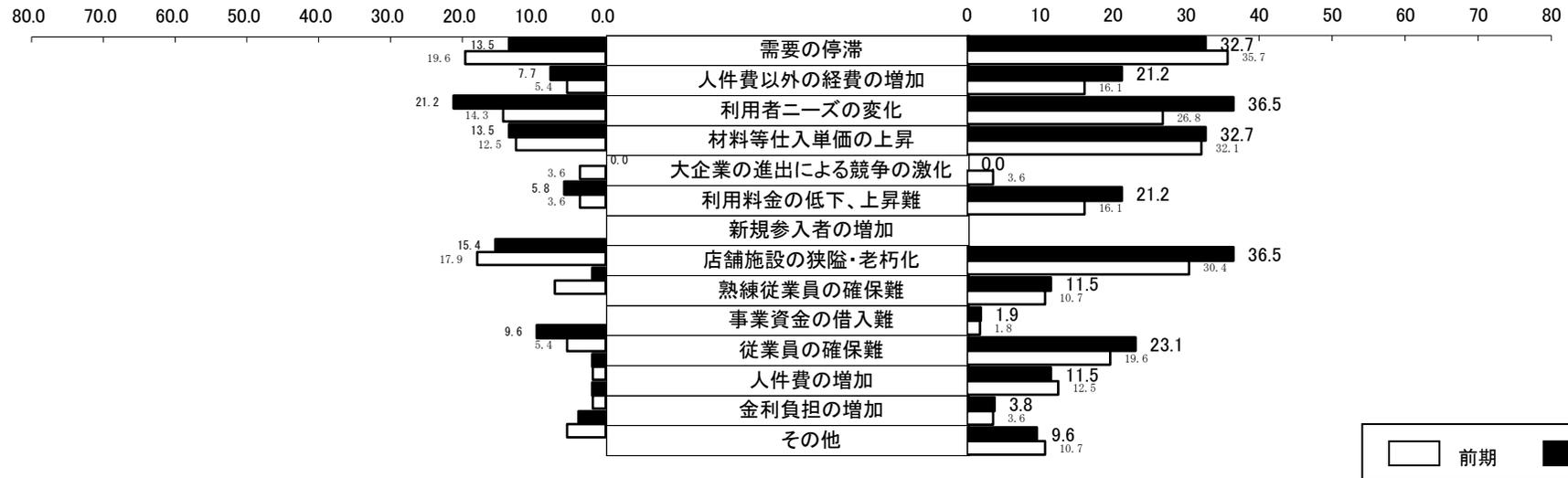
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

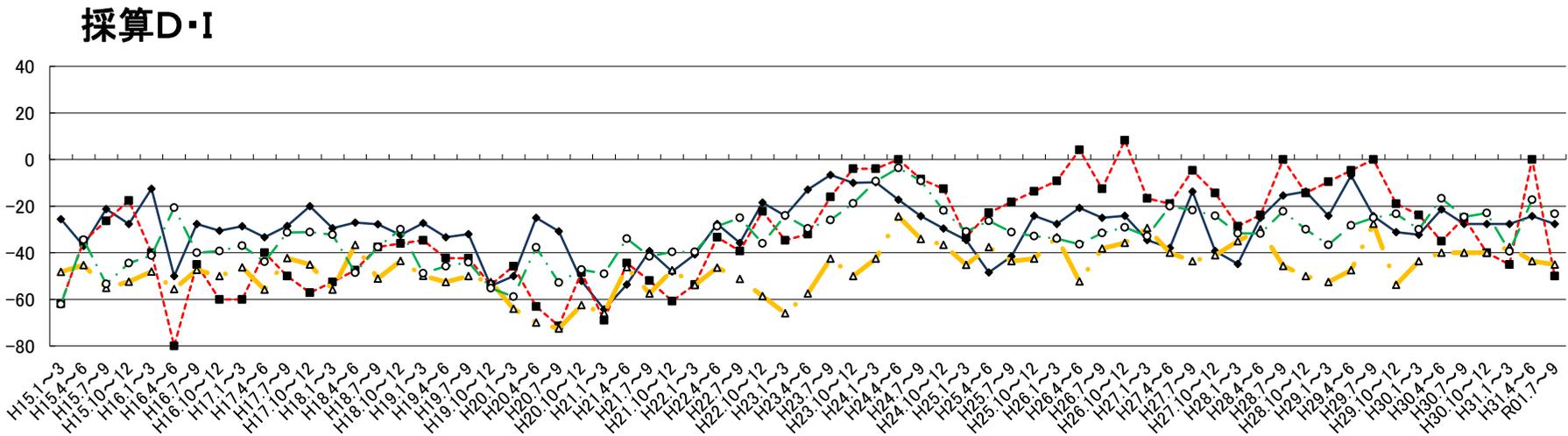
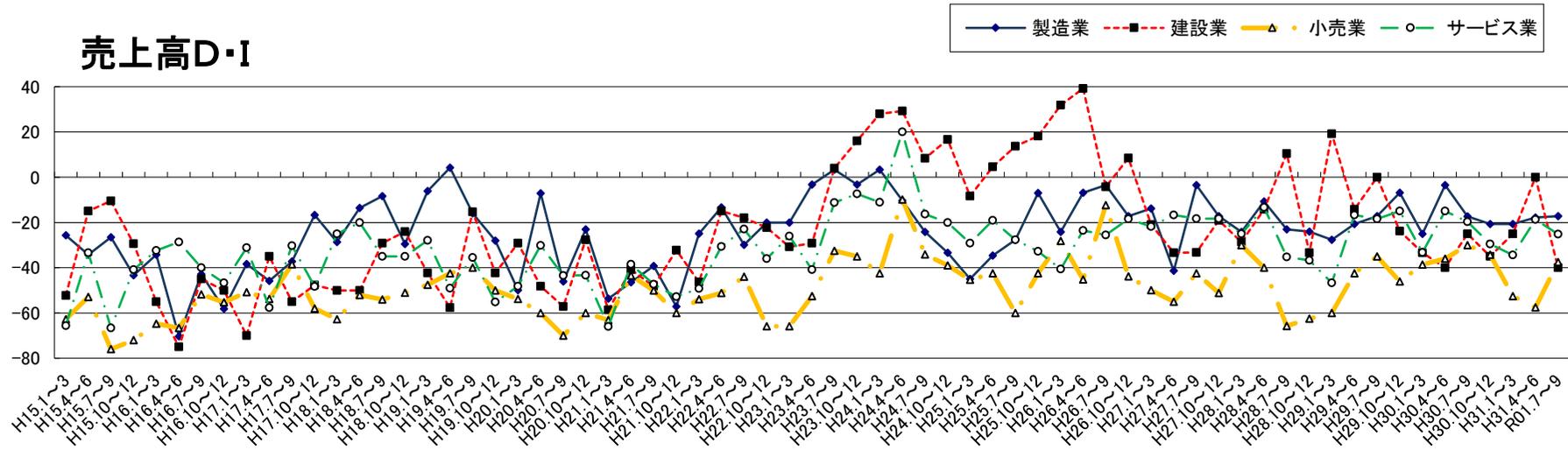
1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛: %)



# 全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



# 集 計 資 料

# 調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 二戸市、雫石、岩手町、滝沢市、前沢  
(商工会名) 金ヶ崎町、山田町、田野畑村、普代、九戸村
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 149 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和元年7月～9月を対象とし、調査時点は令和元年9月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。  
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

## 4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 ( % )
製造業 (地域産業)		29 ( 19.3 )	29 ( 19.5 )	100.0
建設業		20 ( 13.3 )	20 ( 13.4 )	100.0
小売業		40 ( 26.7 )	40 ( 26.8 )	100.0
サービス業		61 ( 40.7 )	60 ( 40.3 )	98.4
		150 ( 100.0 )	149 ( 100.0 )	99.3

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。